

びみょう  
「微妙」

微妙という言葉は、特にここ数年の間に本来とは違う意味で使われるようになり  
ました。

元々は仏教語で「微妙（みみょう）」と読み、言葉では言い尽くせないくらい不思議  
で奥深く素晴らしいことを表現する言葉でした。仏教の法話の前にお唱えする  
「開かい経きやう偈げ」という偈文の一番目に「無む上じやう甚じん深じん微み妙みやう法ぽう」とありますように、お釈  
迦様の教えがこの上もなく深く尊いものであることを、讃えているのです。

現在は、特に若者言葉として使われる「微妙」は多くは片仮名で表記され、何と  
なく物や相手と距離を置きたい気持ちを代弁する時に使われるようです。

本来の、お釈迦様の教えのように奥深く素晴らしいという意味があることも忘れ  
ないで下さい。

たんか  
「啖呵」

「啖呵を切る」という使い方も近頃はとんと、耳にしなくなりました。

使っている漢字は違いますが、「弾たん呵か」は、元々仏教語で『維ゆい摩ま経きやう』というお経  
に由来する言葉です。

優れた仏教者である維摩居士ゆいまこじが出家しゆつげ中心の仏教にとどまっていることを叱りつけ  
る、勢いのある言葉で正しさに導くという意味でした。

現代では大声で一いつ気き呵かせい成せい導うとく手法は疎んじられる様に思います、何にしても説明  
責任を問われることが多く、及び腰になってしまいがちですが。

本来の維摩居士が示してくれた「弾呵」のように、はっきりとした言葉と行動で、  
過ちを正し、教えに導くことも必要なのではないのでしょうか。

— 終 —